

「子どもと子育て家庭を取り巻く相談支援体制」に関する現状・課題、解決策及び各主体の役割について

項番	①現状と課題	②解決策	③各主体の役割
1	○ 子育て関連は、地域の子育て関連団体の活動が盛んであるため、その力を活かすプラットフォームの形成が必要。	○ 新たな児童館を、地域の子育て関連団体が活躍できる場とする。	○ 区民は、地域の課題を身近なところで地域の人が解決するという視点を持つ。
2	○ 子どものSOSをどのように拾い上げるかが課題。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛により、子ども・保護者ともにストレスが溜まるが、外出も難しく、家に居ることが苦痛。 ○ 「母子家庭で、母親はメンタル的な課題があり、子どもは発達に課題がある」といった複合的な課題を抱える家庭が存在する。	○ 子どもの声を聴く、子どもの徒歩圏内で生活を可視化することが大切であり、新たな児童館の役割が重要。また、複合的な課題に対応するために、すこやか福祉センターなどとの連携強化が必要。	
3	○ 子どもと二人だけで、長時間過ごすことが続くと、精神的に疲弊してしまうことがある。限界を超えそうなときに、何かしらの支援の手、福祉と繋がれるための方策が必要。 ○ ひきこもりの場合など、支援につなげたくても、「つなぎ先」がないケースも考えられる。	○ 児童相談所などの行政の相談機関に連絡すれば何とかするということを知ってもらうこと、そこに何が何でもつなげることが必要。また、様々な課題を抱えていることもあるため、そのアドバイスができる団体につなげることが重要。 ○ 行政の相談機関につなげるということの意識の浸透が重要。	○ 行政は、どんな相談も断わらないという姿勢が大切。
4	○ 子どもの場合は、複合的な課題を抱えるケースがある。それぞれの分野の専門性を持った人がいなければ、相談しただけで終わってしまう。 ○ 子ども本人の課題の解決も必要だが、家庭にある問題をどのように解決させていくが課題。	○ 相談支援において、人材の育成・配置、またはアウトソーシングなどにより、専門的な人材の確保が必要。	
5	○ 放課後の子どもの行き場所が必要。ちょっとした悩み事を相談できる場所が必要。 ○ 子どものからのSOSを拾い上げる場所が必要。	○ 児童館で子育て経験者や巡回に来る専門職にちょっとした悩み事を相談できることが重要。 ○ 子どもが素に戻り、自分の悩みを自然と言える、児童館や学童クラブ、キッズ・プラザなど、保護者でも先生でもない大人がいる場所が重要。	

項番	①現状と課題	②解決策	③各主体の役割
6		○ これまでの児童館と思わない方が良いのであれば、名称を変えた方が分かりやすい。	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相談してほしい人、潜在的に相談に来て欲しい人をどう支援につなげるかが課題。虐待などの悲しい事件を未然に予防することが重要。</li> <li>○ 地縁、血縁のない地で子育てしている「アウェー育児」は7割いるといわれている。地域との繋がりが無いので、誰に相談すれば良いのか分からない人がいる。</li> <li>○ 相談したいと思ったとき、自分にとってのキーパーソンが誰なのか分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「かんがるープラン（支援プラン）」を作るとき、「こんにちは赤ちゃん訪問」のとき、すこやか福祉センター等での定期健診のときという3回の関わる機会がある。赤ちゃん訪問時に民生児童委員などの支援者が同行する。</li> <li>○ フィンランドの「ネウボラ」のように、妊娠期から子育ての期間中に、決まった人が相談に応じてくれる制度があると良い。</li> </ul>	
8	○ SOSを発信できない人がいる。	○ メールやSNSによる支援が必要	

※ 第3回部会の各委員の発言要旨を記載。